

再評価

高梁川水系直轄総合水系環境整備事業



平成18年9月8日

国土交通省中国地方整備局

1. 流域の概要

- ・ 高梁川の流域は古くから備中と呼ばれ、政治・経済・文化の面で重要な地域であり、中流の松山（現高梁市）は16世紀頃に始まった高瀬舟による舟運でにぎわいをみせていた。
- ・ 河口部は、岡山県内一の水島臨海工業地帯を形成している。高梁川はこの水島臨海工業地帯を支える工業用水を供給しているほか、岡山市、倉敷市、総社市など3市1町へ農業用水を供給し、10市4町へ水道用水を供給するなど、地域の生活、農業、産業の基盤を支えている。



【高梁川の諸元】
流域面積 : 2,670km²
幹線流路延長 : 111km
(内、大臣管理区間26.5km)
流域内人口 : 約27万人

湛井十二ヶ郷用水は、古くから岡山平野の西半分の農地を潤している。この他、東西用水、上原井領用水などがある。



湛井十二ヶ郷用水



高瀬舟

高瀬舟は浅瀬を運航できるよう底が平らとなった木造船である。高瀬舟は秋の彼岸から春の彼岸まで運行されていた。



水島臨海工業地帯

河口では水島臨海工業地帯があり、重化学工業が盛んである。

2. 河川環境

- 都市近郊では、高水敷に運動場や広場が整備され、多くの人々に利用されている。高梁川は、自然環境にも恵まれており、酒津付近では、屈曲した河川景観や柳井原の美しい水面、八幡山の緑が一体となって良好な水辺空間を形成している。
- 魚種はオイカワやカワムツなど淡水魚の種類が多く、スイゲンゼニタナゴなどの貴重種が生息している。
- 鳥類は四季を通してサギ類、冬はカモやカモメ類、春秋にはシギ・チドリ類がみられる。
- 水質は良好な状態を維持しており、湛井堰でBOD 2mg/L以下など環境基準を満足している。



スイゲンゼニタナゴ[コイ科]
 種の保存法：国内希少野生種
 環境省：絶滅危惧IA類 (GR)
 岡山県：絶滅危惧種
 広島県：絶滅危惧I種



河原の礫地に営巣するイカルチドリ



下流の水面に飛来するのカモ類

種別	種類数
魚類	72種
エビ・カニ・貝類	19種
底生生物	214種
植物	605種
鳥類	72種
両生類	7種
爬虫類	4種
ほ乳類	15種
陸上昆虫類	1,258種

河川水辺の国勢調査結果（平成11～16年度）



倉敷市酒津付近



倉敷市酒津公園

3. 事業経緯・事業の必要性

3.1 高梁川水系河川空間管理計画

治水・利水機能と調和した河川環境の適正な保全と創造を図るため、河川管理者、沿川自治体、学識経験者等で構成する「高梁川河川環境管理協議会」を立ち上げ、平成元年3月「高梁川水系河川空間管理計画」を策定し、計画的に河川環境整備を実施している。

田園ブロック

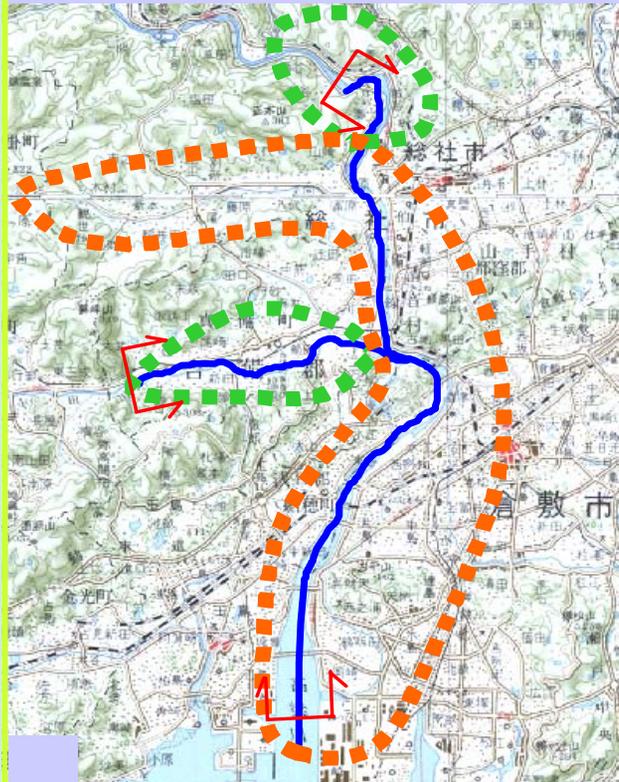
田園と山並みを背景に水と緑の良好な河川景観を形成している地域である。

【管理方針】

地域に密着したふるさとの川として、人々が自由に集いふれあえるよう管理する。



<桜づつみ>



都市近郊ブロック

下流部は、沿線に吉備文化を象徴する史跡が点在し、のどかな田園風景が広がる。

【管理方針】

都市近郊区間で、河川空間を活用し、スポーツやレクリエーションを楽しめるよう管理する。



<水面利用が多い>

3.2 関連計画等

高梁川沿川の自治体では、高梁川を水と緑のふれあいの場としてまちづくりに活かす計画が策定されている。

関連計画一覧表

関連計画		高梁川の位置付け	策定団体
①	倉敷市第五次総合計画後期基本計画	自然と都市が調和したまちづくりを施策として、自然景観・自然環境を保全し自然とふれあえる場の整備を図る	倉敷市
②	新市まちづくり計画	自然とのふれあいの場・環境学習の場として自然環境の有効的な活用、水辺の楽校など既存施設の有効的な活用を図る	総社市・山手村・清音村合併協議会
③	総社市生涯学習推進基本計画	市民と市政の協働による生涯学習を進めており、「そうじゃ水辺の楽校」が社会教育施設として位置づけられている	総社市
④	全町緑化公園構想基本計画	桜等による河川緑化を推進することにより、良好な水辺空間の形成を図り、地域住民の憩いの場を創出する	旧真備町



<そうじゃ水辺の楽校>

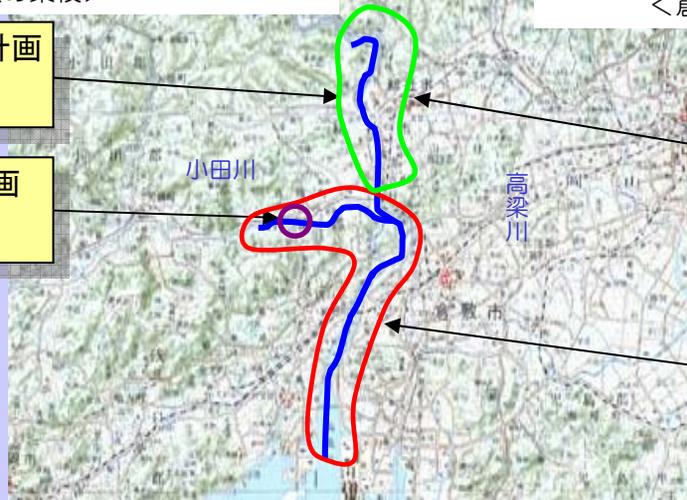
<倉敷市第五次総合計画後期基本計画より引用>

③総社市生涯学習推進基本計画
(総社市)

④全町緑化公園構想基本計画
(旧真備町)

②新市まちづくり計画
(総社市・山手村・清音村合併協議会)

①倉敷市第五次総合計画後期基本計画
(倉敷市)



<赤鳥居箇所：桜づつみ>

3. 3高梁川の自然環境・河川利用に関する問題点

<都市近郊ブロック>

- ・河川を利用した運動場は、15箇所整備されているが、高梁川は水面利用が盛んな川であり、地域からは水上スポーツの利便性の向上と河川空間の更なる利用スペースを求める声が多いことから、水辺へのアクセス向上などの整備が必要である。

<田園ブロック>

- ・高梁川には、水辺の楽校が3箇所整備されているものの、小田川には人々が自由に集いふれあえる拠点の整備が少なく、周辺施設と一体となった河川整備が望まれている。

<自然環境>

- ・高梁川水系には潮止め堰をはじめ160箇所を越える河川横断工作物が設置されており、魚類の移動性の確保、遡上等の生息・生育環境を向上する必要があることから、遡上効果の高い魚道整備等の施策が必要となっている。



親水性に乏しい水辺



河川との連続性が途絶えている



生態系に配慮した施設整備が必要